

下痢、便秘、血便……。見過ごしがちなトラブルが、サインかも！

身近でコワイ、大腸の病気

「自分には無縁」とわれがちで、大腸の病気。放っておくと危険な病気でありながら、日常のおなかのトラブルが予兆となるケースもあるのだとか。そんな身近でコワイ病気のあれこれを、大腸内視鏡検査の専門家に聞いてみました。



trouble?

おなかの「不調」は「予兆」
日常生活に潜んでいる
病気のサインとは？

大腸の病気といえば、命を落とす危険性のある**大腸がん**を連想する人が多いでしょう。でも、その他にも指定難病である**潰瘍性大腸炎**や**クローン病**、原因のはっきりしない**過敏性腸症候群**などリスクの大小はあれど、さまざまな病気が存在します。例えば**腫瘍と呼ばれる腫瘍は、良性でありながら、悪性化し大腸がんになる危険も**。

「自分は大丈夫」と思う人もいるでしょう。ただ、命に関わるような病気だとしても、お通じが悪い、おなかが緩いなど、ごく身近な不調が予兆として現れるケースが少なくありません。そんな、つい見過ごしがちな病気のサインをご紹介します。

私が
お教えします

厚木胃腸科医院
寒河江 三太郎 院長

2007年北里大学医学部を卒業。日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医。大学病院レベルの精度の高い内視鏡検査で、地域医療に貢献する。

関連記事 000P



“あるある”「大腸トラブル」のサイン

日常的に起こりやすいトラブルが、実は大腸の病気の兆候だということも珍しくありません。「自分は

大丈夫」と体からのサインを見逃さず、チェックしていきましょう。

1つでも
当てはまったら
医師へ相談を！

大腸トラブル危険度チェック

- ☐ 刺激性の便秘薬や浣腸を使っても便秘が続く
- ☐ 便秘や下痢に加えて便に血が少しでも混じっている
- ☐ 強い腹痛、吐き気、嘔吐、発熱が伴う便秘・下痢
- ☐ 2〜3週間下痢の症状が続いている
- ☐ 体重の減少が見られる下痢

便秘

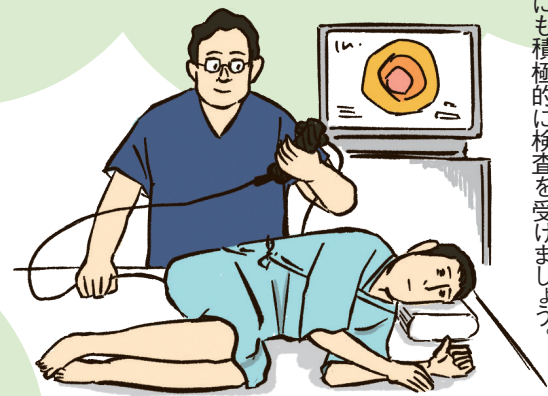
便が出にくく、排便に苦痛を伴う症状。適切な排便頻度は人によりますが、排便困難があれば毎日排便があっても便秘となります。急に便秘が続くようになったり、体重が減少したりするケースは、大きな病気の可能性も。

下痢

便の水分量が増え、頻繁に便意を催し、おなかには不快感や痛みを伴う症状。食中毒などによる感染性の下痢のほか、ストレスに起因するものもあります。便秘と同様、急に発症し出した場合などは要注意です。

血便

便に血液が混ざる症状。その原因の多くは痔といわれますが、進行した大腸がんがある場合にも血便を伴うことがあるので注意が必要です。もし、便潜血検査が陽性だったなら、すぐに消化器内科を受診しましょう。



「大腸の病気かな？」と思ったら
早期発見・治療のために
迷わず、大腸内視鏡検査を
便秘や下痢などに対しては、通常、薬による治療や生活習慣の改善が勧められます。ただ、大きな病気がないかを確認するためには、大腸内視鏡検査や大腸バリウム検査といった「大腸の検査」が必要です。もし、検査時に大きなポリープや、出血を伴う危険性のあるポリープが見つければ、専門の医療機関などでの精密検査や手術へと進みます。また、内視鏡検査でポリープが見つかった場合、ある程度の大きさなら検査中に切除可能です。成長した**大腸ポリープが、がん化するケースも多い**といわれるので、早期発見・治療のためにも積極的に検査を受けましょう。

もっと知りたい 大腸の病気 Q&A

寒河江先生に
聞きました！

Q 感染症が怖くて、検査に行くのをためらっています。

A 検査中のフェイスシールドや防護服の装着、検査室の換気などを徹底している医療機関を選びましょう。潜んでいる病気が進行してしまう前に、ぜひ検査をご検討ください。

Q 下剤が効きにくい体質でも、検査を受けられますか？

A はい、もちろん受けられますよ。患者さん一人ひとりの年齢や排便状況に合わせて、下剤を飲むタイミングや量、回数を調節することができます。気軽に医師にご相談ください。

Q 大腸内視鏡検査は、痛いと言いたのですが……。

A 鎮静剤を使い、患者さんがうとうととしている状態で検査をしますので、ご安心ください。また、より痛みが少なくなるように、ゆっくりとカメラを挿入する検査法もありますよ。

Q 小さなポリープなら、放置しても問題ないのでは？

A いえ、大腸ポリープは成長して大腸がんに変化する危険性があります。「小さいうちに取っておけば……」と後悔しないためにも、定期的に検査を受けることが大切です。

Q 腹痛や下痢が多いのですが、大腸の異常でしょうか？

A 検査をしないことにはわかりませんが、ストレスなど精神的な負担が原因となる場合もあります。検査は、病気かもしれないという不安を取り除くことにもつながるでしょう。



40代から、大腸がんが急増 受けていますか？ 大腸内視鏡検査

column

大腸内視鏡検査の適齢期は、大腸がんのリスクが急激に増え始める40代といわれています。さらに2親等までに大腸の病気を患った人がいれば、35歳くらいで受け始めるのが望ましいと寒河江先生は言います。ただし、一度検査をして異常がなかったとしても、一生リスクがないとは言えません。3〜4年に1度は定期検査を受けましょう。

また、潰瘍性大腸炎などの好発年齢は、20〜50代といわれます。20〜30代であっても、心配な方は検査を検討してみてください。

便秘や下痢などは「恥ずかしくて相談しにくい」という人もいますが、大きな病気を招く危険性をはらんでいます。大腸の病気は、生活習慣が原因になることもあるので、小さなことでも気になることがあれば、まず消化器内科に相談しましょう。

